

# 初盆を迎える方へ

「西春町史 民俗編」からの抜粋

## 初盆

初めての盆を迎える仏をアラボトケ（新仏）（九之坪西浦、山之腰）・ハツオシヨロイ（初精霊）（九之坪東辰巳、米野）、初めての盆をハツボン（初盆）（九之坪東辰巳・西辰巳・東両家、石橋、弥勒寺、山之腰、青野）・シンボン（新盆）（九之坪高畑、沖村中ノ切、鍛冶ヶ一色）という。

..... 途中 省略 .....

檀那寺では施餓鬼（\*1）がある。そのとき、初盆の家では親戚からスミ袋に米か麦を入れて持ってくるので、これを施餓鬼棚に供える。

スミ袋（\*2）は、さらし木綿を二つ折りにして縫い合せ、三角袋にする。袋には墨で戒名と施主の名前を書く。米や麦は一升から一升二合ぐらい入れる。スミ袋を出す親戚の範囲は、普通死者の子供全員と死者の妻の実家、喪主の妻の実家である。スミ袋を供える寺は檀那寺のほかに信徒寺にも供える（宇福寺、山之腰）。宇福寺のある家では、親戚が持ってきたスミ袋が十袋あり、また、当家で二袋を作り、七つを檀那寺へ、五つを観音堂（庵寺）へ持参した。スミ袋を持って行くのは、七月三十一日か八月一日（九之坪高畑）、八月一日から夜施餓鬼（\*3）が始まるまで（九之坪西辰巳、弥勒寺）、夜施餓鬼の初日（九之坪西浦）、七日盆の前（宇福寺）であった。米野では、スミ袋に白米を一升ぐらい入れて供えるのは、二年目であり、初精霊はできるだけ多く、寺へ供え物をしたという。また戦後、米が少なかった時代には、スミ袋料として、金を供えたこともあった（九之坪東辰巳）。

..... 途中 省略 .....

墓には、白色の提灯（\*4）を点す（九之坪西辰巳・東西両家）。

- \*1 <sup>だいせじきえ</sup> 観昌寺では、八月三日に「大施食会」を行います。初盆のお宅は、アラボトケと先祖代々の二口でお申し込みください。
- \*2 スミ袋は一辺が30センチの四角いさらしを、三角形に折り曲げて縫い合わせたものです。表に戒名と施主名を書いてください。
- \*3 <sup>やかんせじきえ</sup> 観昌寺では、八月一日から六日の間、「夜間施食会」を夜八時からおこないます。スミ袋は、初日までにお持ちください。
- \*4 <sup>はかせじきえ</sup> 八月十三日に行います「墓施食会」の時に提灯を点してください。

